

## ナチス・ドイツによる強制収容と犠牲者数に関する研究 ～ポーランド南部及び東部の現地調査を通じて（Ⅲ）～

青山貞一（東京都市大学環境情報学部）、池田こみち（環境総合研究所）

第2次世界大戦中、欧州ではナチス・ドイツによってポーランドを中心に、ドイツ、オーストリア、リトアニア、ラトビア、エストニア、イタリア、フランス、オランダ、ベルギー、旧ユーゴ、旧ソ連、ウクライナ、ベラルーシなどの国々に、いわゆる強制収容所が多数設置、運用され、ユダヤ人を中心に多くの人々が犠牲となった。本論では、ポーランドのアウシュビッツ、ビルケナウ、マイダネク、ソビボル、ベルゼック、トレブリンカなどガス室・焼却関連施設をもつ大規模な強制収容施設についての現地実態調査をとりまとめるとともに、さらに関連各国における第3者による歴史考証や実態調査、さらに収容所、収容数、犠牲者数に関する文献・資料調査をもとに、ポーランド及び欧州各国どの主要収容所を現地視察、現地資料収集することにより犠牲者数の推計を試みた。

### ■ ベルゼック絶滅収容所の概要

本論では、ポーランド東部にあるナチス・ドイツが設置、運用した3つの強制（絶滅）収容所、すなわちベルゼック、ソビボル、トレブリンカ収容所について述べる。ポーランド東部地図にあるベルゼックとソビボルは、ナチス・ドイツが敗戦前に徹底的な証拠隠滅作戦で施設そのものを破壊したため、現在はアウシュビッツ、ビルケナウさらにマイダネクのように収容施設、ガス室、焼却炉などの実物が博物館などとして保存、展示されているわけではない。

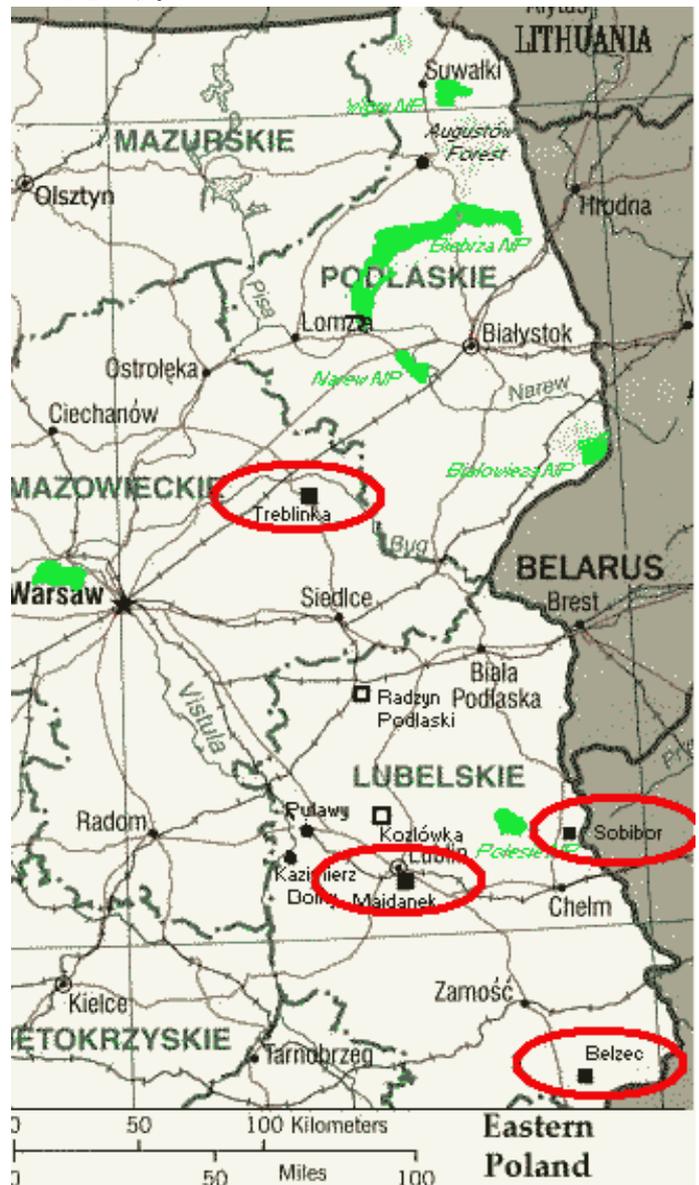
ベルゼック強制収容所(Belzec Concentration Camp)は、第2次世界大戦中にナチス・ドイツがポーランド東部ルブリン県においた強制収容所のひとつである。ベルゼック収容所は、ポーランドのユダヤ人絶滅(Extermination)を目的としたラインハルト作戦に則って作られた3大絶滅収容所のひとつである。

3大絶滅収容所とは、①ベルゼック強制収容所、②ソビボル(Sobibor)強制収容所、③トレブリンカ(Treblinka)強制収容所の3つを指す。とりわけベルゼックは3大収容所の中で最初に作られ、他の2つの収容所のモデルともなっている。ちなみに筆者は、3大収容所にマイダネク(Majdanek)強制収容所を加え、東ポーランドの4大強制収容・絶滅施設と呼んでいる。

ベルゼック収容所は1942年4月に竣工し、以降、閉鎖されるまでの間、ユダヤ人らが大量に移送、輸送されガス室などに送り込まれた。右の地図は4大強制収容所の位置を示しているが、いずれもウクライナ、ベラルーシなどとの国境近く、いずれも人里離れた人気がない場所で、なおかつ、鉄道輸送が便利な地域に立地されているという共通点がある。

ベルゼックでは、強制収容所の設置から最終的な閉鎖までのわずか1年間に40万人にも及ぶユダヤ人をはじめロマ民族、ポーランド人政治犯などが強制収容され、

その多くは比較的短期のうちに殺害され、犠牲となっているという。



東ポーランドにおける4大強制収容所の位置

下はベルゼック収容所の計画図の一部である。

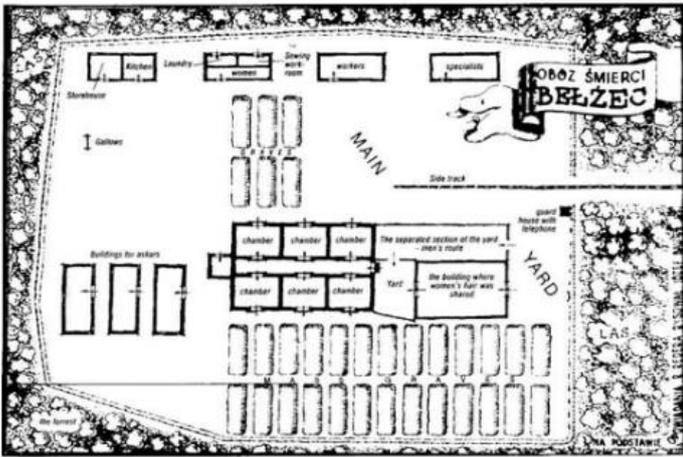
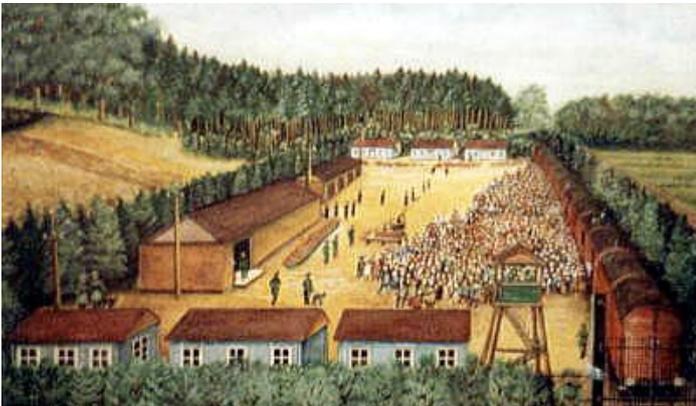


Fig. 4 The camp plan based on R.Reider's report

以下はベルゼック収容所の絵画。下の図では強制収容された囚人がグラウンドに集められていることが分かる。



ベルゼック収容所のイメージ図

ベルゼックはルブリン地区の SS 警察高級指導者であるオディロ・グロボクニク親衛隊上級大佐が親衛隊全国指導者ハインリヒ・ヒムラーの命を受けて建設を開始した最初のユダヤ人絶滅収容所とされる。

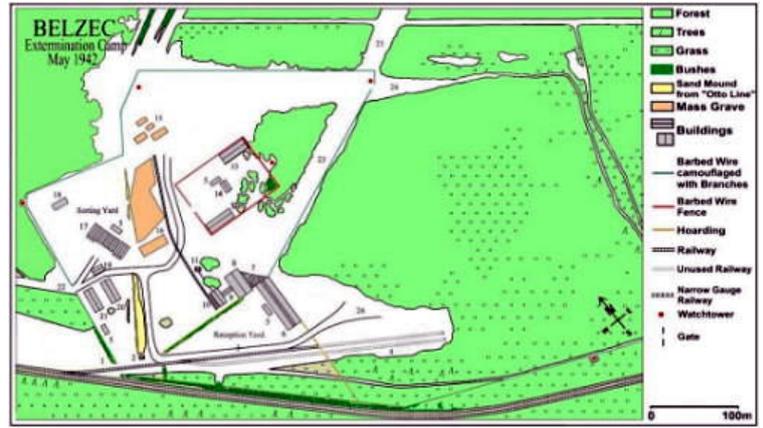
ベルゼックが東部の強制収容所として選ばれた理由は、上述のように①はひとけがなく、②鉄道に近い場所であったためであった。これらはアウシュビッツなどとも共通するものである。ベルゼック強制収容所の入口は、鉄道のベルゼック駅から分岐した線路を300メートルほど進んだところにあった。

1941年11月から建設が開始され、1942年2月に完成している。ベルゼックの初代所長には、のちに3大絶滅収容所の総監となるクリスティアン・ヴィルトが就任した。1942年1月のヴァンゼー会議でラインハルト・ハイドリヒ親衛隊大将がラインハルト計画を立ち上げるとベルゼックは改めて3大絶滅収容所の一つとされた。ベルゼック収容所では1942年3月よりガス室を使つての絶滅作戦が開始されたとされている。

ベルゼック収容所には2ブロック存在し、1ブロックは囚人の到着にかかる事務を担当するブロックで囚人から衣服や荷物をはぎ取り保管するための場所となった。

第2ブロックには、10個のガス室が設置され、他に共

同墓地や死体の搬送作業などに当たる労務囚人の住居スペースなども存在したという。



- 1. Entrance Gate
- 2. Guard Hut
- 3. Siding (10 wagons)
- 4. Remainder of disused siding and secondary siding, not utilized until August 1942
- 5. Latrine
- 6. Warehouse
- 7. Enclosed split log path
- 8. Undressing barrack
- 9. Enclosed covered path
- 10. Gassing hut and narrow gauge rail track to mass graves
- 11. Gassing engine in pit
- 12. / 13. Jewish "Sonderkommando" housing
- 14. "Sonderkommando" kitchen
- 15. Experimental graves February March 1942
- 16. Mass graves
- 17. Sorting sheds
- 18. Disinfection building
- 19. Ukrainian kitchen
- 20. Ukrainian sick bay, canteen, dentist and barber
- 21. Ukrainian housing
- 22. Route to locomotive storage shed
- 23. Pre-war "logging path"
- 24. Area being felled for camp expansion

1942年5月のベルゼック強制収容所の立地図

下図は、上の1942年5月時点のベルゼック収容所が12月にさらに拡大、拡充されたもの。9、10、11、12がガス室関連、13が人骨踏粉砕装置となっている。



- "A" Ramp A (20 wagons)
- "B" Ramp B (20 wagons)
- "C" Holding "pen" for ramp "B" - transport and detention area for the elderly, infirm, or "difficult" deportees
- 1. Entrance gate
- 2. Guard hut
- 3. Gate for "handing over the transport"
- 4. 2nd entrance gate
- 5. Latrines
- 6. Warehouse
- 7. Enclosed split log path
- 8. Undressing and "Barbers" barrack for women
- 9. "Die Schlieuse" (The Sluice) - Camouflaged barbed wire path to gas chambers
- 10. "Stiftung Hackenholt" (The Hackenholt Foundation) - Gas chamber building
- 11. Gassing engine hut
- 12. Camouflaged netting raised on poles covering the gas chambers
- 13. Bone crushing machine on platform
- 14. "Sonderkommando" kitchen
- 15. "Sonderkommando" housing
- 16. Gallows
- 17. Sorting sheds
- 18. Disinfection building
- 19. Ukrainian kitchen
- 20. Ukrainian sick bay, canteen, dentist and barber
- 21. Ukrainian housing
- 22. Route to locomotive storage shed
- 23. Tailors / shoemakers workshop
- 24. SS Garage
- 25. Electric generator
- 26. Jewish "skilled workers" kitchen
- 27. Laundry, sewing, stitching workshop and women's housing
- 28. "Skilled workers" barrack
- 29. Route from holding pen to "Lazarett"
- 30. "Lazarett" pit used for shooting victims
- 31. Dispensary
- 32. Ukrainian nightshift housing
- 33. High watchtower erected on bunker overlooking the camp
- B Bonemill pit

1942年12月時点のベルゼック収容所の立地図

絶滅収容所であったベルゼックは一般の作業場を設けなかったため収容所としては狭く、縦275メートル、横263メートルのほぼ正方形型の収容所だった。

そのなかに5か所の監視塔があり、機関銃が常にガス室へ向かう囚人たちに狙いを付けていた。看守は20名から30名の親衛隊員と60名から80名のウクライナ義勇軍の兵士で構成された。看守たちは収容所内ではなく

ベルゼック駅の付近に住居を持ちそこで暮らしていたという。

1942 年末になるとポーランドにおけるユダヤ人社会がほぼ壊滅し、またアウシュビッツ・ビルケナウ強制収容所が巨大化したため、ベルゼックの必要性は薄れた。1942 年 12 月をもってベルゼックは活動を停止した。その後、絶滅工場の死体の焼却と植林などにより証拠の大規模なカモフラージュ作業が始まり 1943 年半ばにベルゼックは完全に解体され跡形もなくなっている。

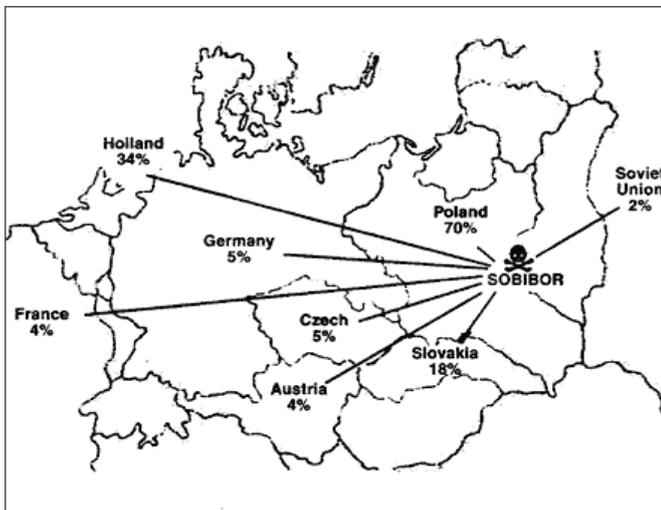
### ■ソビボル絶滅収容所

ソビボル(Sobibor)絶滅収容所は、第2次世界大戦中にナチス・ドイツがポーランド東部ルブリン県のソビボル村においた強制収容所である。ソビボル絶滅収容所は、ポーランドのユダヤ人絶滅を目的としたラインハルト作戦に則って作られた3大絶滅工場のひとつである。

ソビボル絶滅収容所は 1942 年 3 月に竣工し、以降、閉鎖されるまでの間、ユダヤ人、ソ連兵捕虜、ジプシーなどが大量に輸送され、ガス室などに送られた。

詳細には 1942 年 4 月～1943 年 10 月まで稼働し、1942 年 5 月～7 月にユダヤ人 10 万人、1942 年 10 月～1943 年春までに 7 万～8 万人のガリシア・ユダヤ人、14 万 5 千から 15 万人の総督領のユダヤ人、2 万 5 千人のスロバキア・ユダヤ人が殺害されている。

以下はソビボルに送られた国別の割合である。



Source:<http://www.sobibor.info/images/reinhard2.gif>

1943 年 3 月にはフランス系ユダヤ人が始めて到着、1943 年 3 月から 7 月にはオランダ系ユダヤ人 3 万 5 千人が到着。ロシアのヴィルナ、ミンスク(Minsk)そしてリダ(Lida)ゲッターのユダヤ人も殺害された。

上記の合計で推計最大約 25 万人が殺害されている。ソビボルは、他の絶滅収容所同様、ウクライナ、ベラルーシなどとの国境近くにある。いずれも人里離れたひとけのない地域、さらに鉄道輸送が便利な地域に立地されているという共通点がある。

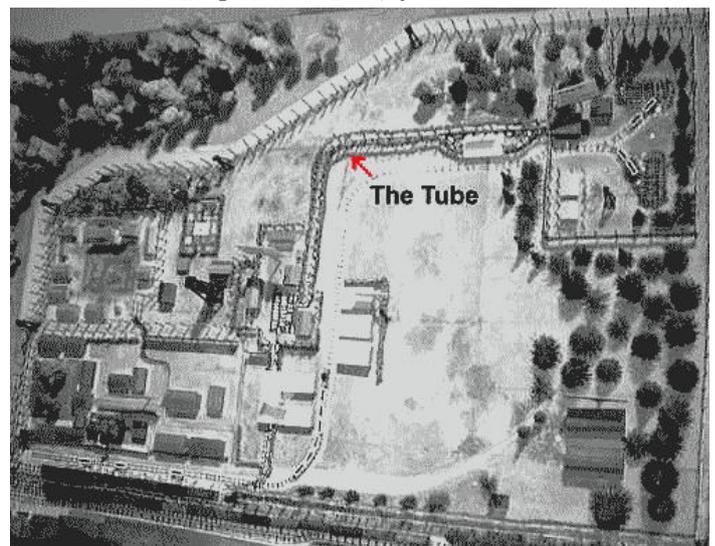


ルブリンからソビボル収容所に輸送されたユダヤ人

なお、ソビボル絶滅収容所の総面積は 58 ヘクタールで周囲は鉄条網と壕と地雷が設置されている。さらに機関銃を備え付けた監視塔が 4 つ備わっていた。ソビボル駅から別れた線路がソビボル収容所入口まで延伸していた。

列車に詰め込まれて収容所に到着した囚人は、まず労務班として必要な者が選別され第 1 収容区へ連れて行かれて各々作業にあたった。それ以外の「必要のない者」は第 2 収容区へ連れて行かれ裸にされたのち、「パイプ道」(Tube、下図参照)と呼ばれた鉄条網にはさまれた 150m ほどの小道を進んで第 3 収容区へ連れて行かれ、そこで「処理」された。

到着から数時間で「処理」に至ったという。ソビボルの敷地にはチューブがありそこに送り込まれた囚人は出口近くで「処理」されたという。



ソビボル絶滅収容所の概要図。鉄道の引き込み線がある  
Source:<http://www.jewishgen.org/ForgottenCamps/Camps/SobiborEng.html>

## ■トレブリンカ絶滅収容所

東ポーランドの3大強制収容所（絶滅収容所）には、すでに述べたようにベルゼック（Belzec）、ソビボル（Sobibor）とともにトレブリンカ（Treblinka）がある。

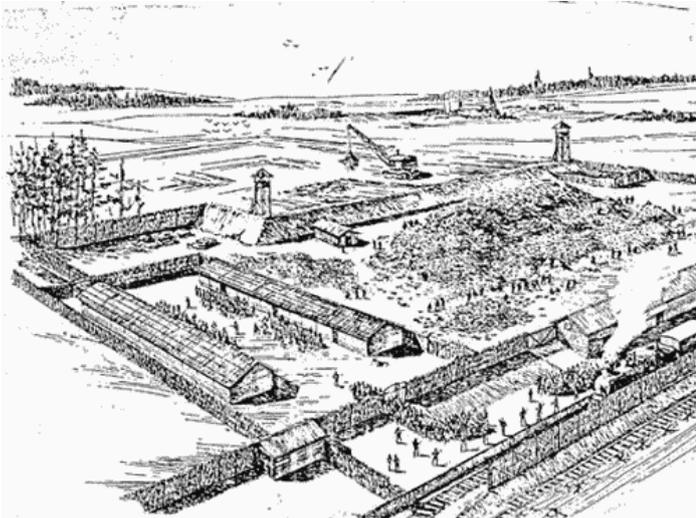
トレブリンカ絶滅収容所は、1941年、ワルシャワの北東80kmに設置した強制収容所である。正確にはトレブリンカには第1収容所（Treblinka I）と第2収容所がある。

第1収容所は、強制労働キャンプで1944年7月まで機能していた。第1収容所では1944年7月にソ連軍が近づいたとき、看守は囚人300～700人を射殺後、撤退したとされている。

トレブリンカ第2収容所では、1942年7月から9月、ワルシャワ・ゲットー（ユダヤ人強制居住地区）の26万5千人のユダヤ人を殺害したとされる。さらに、同収容所（Treblinka II）では1942年7月から1943年11月に87万から92万5千人が殺害されたという報告もある。

そのうちユダヤ人はラドムから33万7千人、ルブリンから3万5千人、ピアールストックから10万7千人がトレブリンカに移送されている。ポーランド外ではスロバキアから7千人、テレジエンシュタット収容所から8千人、ギリシャから4千人、マケドニア（ブルガリア）から7千人のユダヤ人が移送されている。

2000年に発見されたラインハルト作戦に関する電信記録によれば、1942年に移送されたユダヤ人はトレブリンカ（Treblinka）7万1,355人、ベルゼック（Belzec）43万4,500人、ソビボル（Sobibor）10万1,370人、マイダネック（Majdanek）2万4,733人とされていた。だが、ナチスの統計官リッカート・コルヘが国家長官ヒムラーに送った1943年4月の報告書では「ヨーロッパユダヤ人の最終解決」の人数としてトレブリンカ、ソビボル、ベルゼック、マイダネックで収集記録に基づき1942年末までに127万4,166人が移送されたとしている。上記報告にあるトレブリンカで殺害された人数7万1,355人は、71万3,555人の誤記であると考えられている。



トレブリンカ絶滅収容所のイメージ

Source: English Wikipedia

トレブリンカ強制収容所は長方形型であり13.5ヘクタールの面積があった。絶滅収容所であったため収容すると言うより移送後すぐに選別し、殺害するため通常の収容所と比べると手狭であった。ビルケナウ同様の鉄道の引込み線が設置された。トレブリンカ強制収容所は周辺に人家が少なく高さ3mの鉄条網で囲まれていた。機関銃とサーチライトの備わった監視塔も複数存在した。収容所内は第1収容区と第2収容区が存在し、第1収容区には入口・事務所・厨房・倉庫・作業場・菜園に100人から140人ほどのウクライナ人警備兵の宿所などがあった。第2収容区は作業組ユダヤ人のバラック、脱衣バラック、ガス室、遺体焼却施設、共同墓地が存在し、絶滅計画が行われていた。親衛隊員は20名ほどであり、収容所の要職に就いてウクライナ人看守たちを指揮した。彼らは入口の近くの武器庫の側で暮らしていた。

ガス室はソビボルと同型、4m四方、高さ2.6mの部屋で一眼シャワー室に見えたという。そこで隣室から流したディーゼルガスによってガス殺をおこなっていたとされる。

1943年8月2日、ユダヤ人特別労務班の反乱がおり、収容所内の建物を放火してほとんどを焼き払い、混乱に陥った収容所から1,000人の囚人のうち約600人が脱走に成功した。しかしその後親衛隊の捜査でほとんどのものは再度逮捕されてしまった。この脱走騒ぎを機に収容所は解体されることになった。施設は爆破され、犠牲者の遺体は掘り起こされ焼却された。かなりの遠方の町々までその悪臭が匂ったという。土地は整地され、その上にウクライナ系の農夫が家を建てて、住んでいるかのようには偽装された。

現在、トレブリンカでは、ガス室あとの慰霊碑と犠牲者の慰霊碑また復元された鉄道の引き込み線がある。

またガス室脇に穴を掘って犠牲者の持ち物などを焼却したものと、ガス室の地下からの換気のための煙突が地表にでている。これらもまた復元されたものである。

なお、トレブリンカ収容所は証拠隠滅のためナチスによって徹底的に破壊されたため現存する建物はひとつも残っていないが、移送されてきたユダヤ人たちが降り立ったプラットホーム跡、収容所へ向かう鉄道の支線が通されていた獣道、そしてたくさんの記念碑などが当時の面影を忍ばせている。

現場は僻地にあるうえ交通の便も悪く、観光地化されていないため案内も少なく、外国人が訪れるには相当な覚悟のいる場所である。かろうじて、パンフレットなどを販売する売店があるだけ。近在に宿泊施設のあるような町も村もない。ワルシャワから自動車で、1時間半程度を要する。訪問者の多くは観光バスなどのチャーター便もしくはレンタカーで訪問している。

そのIVにつづく